



博物館だより

Nagano City Museum

第128号

収蔵品紹介

藁細工と藁で作られた生活の道具



藁馬（千曲市上山田水上地区）

長野市立博物館では、長野県下におけるツクリモノを数多く収集してきましたが、昨年度、新たに千曲市上山田水上地区の藁馬が寄贈されました。水上地区では周辺の地域とは違った行事でワラウマヒキが行われたとされます。

今回の博物館だよりでは、水上地区で行われたワラウマヒキの珍しい事例をご紹介するとともに、当館の収蔵品の中から行事に使われる藁細工と生活の中で使われた藁の道具に着目してご紹介します。

藁馬

年中行事に藁馬を使った行事があります。長野県内では東信地方を中心に、ワラウマヒキと呼ばれる行事が行われてきました。東信地方のワラウマヒキの多くは、道祖神信仰に関わる行事として行われてきました⁽¹⁾。初午や2月8日に藁で馬型の模型を作り台車に乗せて、お供え物と一緒に道祖神碑まで曳いて歩きます。ワラウマヒキの最後には藁馬を屋根の上に投げ上げる地域もありました。

ここでは当館の収蔵品から、上田市真田町戸沢地区、千曲市上山田水上地区、長野市桐原地区で作られた藁馬に着目し、それぞれの藁馬の形や行事の違いについてみていきたいと思います。

真田町戸沢地区の藁馬

下の写真は上田市真田町戸沢地区の藁馬です。戸沢地区では2月8日（または初午の日）に、藁馬を箱車に乗せてこどもたちが道祖神碑まで曳いて歩きました。

藁馬が背負う俵の中には、ワラヅトに包まれたお供え物の餅が入っています。戸沢地区では、このお供え物のことをネジと呼び、道祖神に供えます。そして先に供えられていたネジを持ち帰ります。この行事はネジ交換とも呼ばれていました。

持ち帰ったネジを食べると風邪を引かず元気に過ごせる、こどもが丈夫に育つと言い伝えられています⁽²⁾。

真田町戸沢地区では、現在でも2月の第2日曜日頃にワラウマヒキが地域の大切な行事として行われ、藁馬の製作と行事が継承されています。



藁馬（上田市真田町戸沢地区）

上山田水上地区の藁馬

次に、昨年度寄贈された千曲市上山田水上地区の藁馬についてご紹介します（表紙写真）。

寄贈者によると、水上地区では月待の二十三夜の行事でワラウマヒキが行われたそうです。二十三夜に行われたワラウマヒキは他に類例が報告されておらず、珍しい事例であると考えられます。

水上地区では、こどもたちが藁馬を台に乗せて自宅から曳いて歩き、二十三夜塔に着くとオハギを供えました。そして二十三夜塔の石碑の文字にオハギを塗りつけたそうです。この水上地区のワラウマヒキは昭和の中頃まで続きました。

現在では水上地区のワラウマヒキを実際に経験した人がほとんどいないために残念ながら情報は少なく、なぜ二十三夜にワラウマヒキが行われたのか、詳細はよくわかっていません。

今では水上地区で藁馬を使った行事が行

われなくなり、収集が難しいことから、非常に貴重な藁馬といえるでしょう。

桐原地区の藁馬（わら駒）

藁馬を使った行事はワラウマヒキだけではなく、神社に奉納する行事もあります。

長野市桐原地区は古くから馬との縁が深く、たくさんの良馬を産出してきた地と伝えられています。桐原牧神社では毎春3月8日に例大祭が行われ、五穀豊穡や繁栄の祈願のために藁馬（わら駒）が奉納されます。

かつては各家で藁馬を作り奉納をしていましたが、現在では保存会によって、藁馬が毎年作られています。

また、藁馬の形も力強く優美で美しいといわれています。

以上、今回は当館の収蔵品から、3ヶ所の地域の藁馬をご紹介します。

藁馬はそれぞれの地域によって形に違いがあり、その地の独自の行事をみることができます。



藁馬（わら駒）（長野市桐原地区）

年中行事・儀礼にみられる藁細工

人々は一年を通して多くの行事や儀礼を行ってきました。かつて民間で行われてきた行事や儀礼の多くは、月の満ち欠け、四季、作物の生育などに合わせて構成されてきたと考えられています。

農業に携わっていた人々にとって、季節の移ろいを感じながら作物の生育を見極める必要があり、四季の変化はとても重要な事でした。そのため一年間のうちに行われる行事には農耕などに関わるものが数多く存在し、生産労働の過程では休養的な役割も含められました。

そして行事や儀礼には、作物の豊作や家族の健康などの祈りが込められました。

それぞれの行事には藁が様々に形を変えて登場し、多種多様な藁細工をみることができます。

収蔵品の中から行事で使われる藁細工の一部をみてみましょう。

正月飾りの藁細工

正月飾りには大黒ジメ、シャクシジメ、注連縄などいくつかの形があり、玄関や神棚に飾られます。

こうした正月の飾り物は地域や家ごとによって形が異なります。



大黒ジメ



シャクシジメ



注連縄



大黒ジメ

小正月につくる藁のツクリモノ

新しい年の始まりを祝う元旦を中心とした時期を大正月と呼ぶのに対し、1月15日頃に行われる行事は小正月と呼ばれます。農民の正月、女の正月などとされ人々に親しまれてきました。

小正月には予祝行事が多く行われます。豊作を祈願する行事では、農作物が豊かに実った姿や農具の模型などのツクリモノを作り、作物を収穫するまでの過程が模擬的に行われました。



米俵を模して作ったツクリモノ

トウカンヤノワラデッポー

旧暦の10月10日の十日夜には農耕に関わる行事が行われました。そのひとつに、トウカンヤノワラデッポーがあります。

こどもたちが、「トウカンヤノ ワラデッポー、ユウメシクッタラ ブッタタケ」などと唱えながら、藁を筒状にして作ったワラデッポーで地面を叩いて家々を回りました。

地面を叩いてモグラや害虫などを追い払うという意味が込められていたようです。



ワラデッポー

この他にも、藁はさまざまな形に加工されて登場し、行事や儀礼には欠かすことのできない素材でした。

藁で作られた生活道具

藁は柔軟質で扱いやすく、自由に加工がしやすいという特性があります。その特性を生かし、藁を使った生活用具が数多く作り出されてきました。

そして人々は藁を編む技術を駆使して、農閑期の手仕事によってたくさんのものを作り出し、生活を豊かにしてきました。

藁を使った道具は保温に優れ、形やサイズも自由に加工ができるため衣・食・住のすべての場面で活躍します。

藁を加工して作られた、日常的に使われた道具の一部をみていきましょう。

蓑



雨具として使われました。藁の中にシナノ木の皮を編みこむことで水をはじく蓑も作られました。

草鞋



藁を紐状に加工し足首に巻きつけ固定します。長時間移動の旅や、作業時に適した履物でした。

わらぐつ



雪深い地域や寒冷地で暮らす人々にとってなくてはならない履物でした。現在のゴム長靴に比べて滑りにくく、足袋の上からわらぐつを履きました。

ワラツト



藁を束ねて筒状にし、食品の保存や運搬をするために使われました。

つぐら



米釜を入れて、炊いた米を保温するときに使われました。

鍋敷き



鍋や釜の下に敷き、煤で床が汚れるのを防ぎました。囲炉裏や七輪での調理が主流であった時代の台所では必需品でした。

箒



大小様々な形があり、住居内外の清掃用具として使用されてきました。プラスチック製品が普及している現在でも藁製品が活用されています。

背負子



藁を縄状に編み、木材に巻き付けて左右には背負縄を留めています。収穫物や荷物を運搬する時に使われました。

背負子には様々な形状があり背負う人や使う状況によって使いやすくする工夫がされていました。

生活道具を作る素材として便利な藁は多くの道具に加工されてきました。藁で作られた道具は、生活の変化とともに目にする機会は少なくなりましたが、箒のように現在でも活用されている道具もあります。

おわりに

新収蔵の藁馬を紹介するとともに、行事のために作られた藁細工と、くらしに必要な藁製品をみてきました。藁を使って作り出されたものは多種多様で、素材として重宝されてきたことがわかります。

現在では藁細工を使って行事を行う地域は少なくなりました。その一方で水上地区のワラウマヒキのように今でもものや記憶として残っていてまだ調査がされていない藁細工を使った行事の事例が他にもあるかもしれません。

(三浦史)

註

- (1) 『長野県史 民俗編 第一巻 (二) 東信地方 仕事と行事』のワラウマヒキに関する部分〔長野県編 1986 510～551、635～642〕東信地方のワラウマヒキは道祖神に関わる行事が多く報告されている。
- (2) 〔斎藤 1981 265～266〕を参照した。

参考文献

- ・ 工藤員功 2008 『〔絵引〕民具の事典』 河出書房新社
- ・ 斎藤武雄 1981 『信州の年中行事』 信濃毎日新聞社
- ・ 坂本勝比古 宮崎清編 1984 『「ワラの文化」を考える』 「ワラの文化」研究会
- ・ 長野県編 1991 『長野県史 民俗編 第五巻 総説 I 概説』 長野県史刊行会
- ・ 長野県編 1986 『長野県史 民俗編 第一巻 (二) 東信地方 仕事と行事』 長野県史刊行会
- ・ 長野県編 1985 『長野県史 民俗編 第四巻 (二) 北信地方 仕事と行事』 長野県史刊行会
- ・ 長野市立博物館 1996 『豊かな実りを祈る—小正月の行事—』
- ・ 長野市立博物館 1984 『ワラと生活』
- ・ 福田アジオ 新谷尚紀 湯川洋司 神田より子 中込睦子 渡邊欣雄編 2000 『日本民俗大辞典 下』 吉川弘文館

博物館だより 第128号 発行日2023年12月28日

長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414
TEL:026(284)9011
<https://www.city.nagano.nagano.jp/museum>

戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400
TEL:026(252)2228

鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659
TEL:026(256)3270

信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3
TEL:026(262)3500